

Senshu University Glee Club

第50回 記念定期演奏会
専修大学グリークラブ



2014年11月30日(日)

開場 13:30 開演 14:00

日経ホール

専修大学校歌

作詞 高野辰之
作曲 信時 潔

宮城の北 枢地に立ちて

礎固し 我等が大学

質実な姿 真摯な心

学徒幾千 理想に生きて

済世の道 ここに学び

経綸の策 ここに究む

鳳の翼 両手に開き

世に魁けし 我等が大学

剛健の意気に 力行の勇に

学徒幾千 希望に生きて

常久の富 ここに萌し

限りなき幸 ここに芽ぐむ

「我等が行く道 磐石なせり

我等が行く手は 光に充てり」

エール専修

作詞 秩父重剛
作曲 片山正見

若き命を 飾る

勝利の賛歌

母校の旗へ

捧げてここに

覇者の名をつぐ専修我等

精鋭無双の力を挙り

怒濤の歩みを追めるところ

栄光燦たる我らがゆく手

専修 専修 鳳専修

ごあいさつ

本日は大変お忙しい中、専修大学グリークラブ第50回定期演奏会にお越しくださり、誠にありがとうございます。

当団は昨年度創立50周年を迎え、そして今年度、めでたく50回目の定期演奏会を迎えることが出来ました。節目の演奏会をより充実したものとするため、団員一同、真摯に練習に取り組んで参りました。

本日の演奏で、これまで当団が積み重ねてきた「歴史」を、そして新たな一步を踏み出す「決意」をお伝えすることが出来れば幸いです。どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。

最後になりましたが、本日の定期演奏会の開催にあたり、ご尽力くださいました先生方、諸先輩方、団員のご家族の方々や地域の方々をはじめ、専修大学グリークラブを応援してくださいました皆様方に、心より感謝申し上げます。

専修大学グリークラブ一同

専修大学校歌

指揮：押塚登貴夫（名誉指揮者）

作詞：高野辰之

作曲：信時 潔 編曲：岡本 仁

First Stage

【日本のうた ～北原白秋と高野辰之の詞による～】

指揮：平野雄大 浅野友泰

- ・この道
- ・紅葉
- ・待ちぼうけ
- ・からたちの花

作詞：北原白秋

作曲：山田耕筈 編曲：福永陽一郎

作詞：高野辰之

作曲：岡野貞一 編曲：柳田孝義

作詞：北原白秋

作曲：山田耕筈 編曲：林雄一郎

作詞：北原白秋

作曲：山田耕筈 編曲：福永陽一郎

Second Stage

【男声合唱とピアノによる「夜」の曲集】

指揮：平野雄大 ピアノ：森 朋子

- ・ある真夜中に
- ・そして夜が明ける
- ・小譚詩

作詞：瀬戸内寂聴

作曲：千原英喜

作詞：なかにし礼

作曲：西村 朗

作詞：立原道造

作曲：木下牧子

Third Stage

【月光とピエロ ～フェニックスグリークラブ～】

指揮：中山 ちあき

演奏：フェニックスグリークラブ

作詩：堀口大学 作曲：清水脩

- ・月光
- ・秋のピエロ
- ・ピエロ
- ・ピエロの嘆き
- ・月光とピエロとピエレットの唐草模様

【休憩】

Fourth Stage

【DAS BERLINER REQUIEM】

指揮：小橋良行 ピアノ：森 朋子

作詞：BERTOLT BRECHT

作曲：KURT WEILL

- ・Großer Dankchoral
- ・Ballade vom ertrunkenen Mädchen
- ・Marterl
- ・Erster Bericht über den Unbekannten Soldaten unter dem Triumphbogen
- ・Zweiter Beriche über den Unbekannten Soldaten unter dem Triumphbogen
- ・Großer Dankchoral

Fifth Stage

【第50回定期演奏会記念 学生&OB合同ステージ】

愛唱歌で綴る半世紀の歴史 ～名誉指揮者を迎えて～

指揮(1,2)：小橋良行

指揮(3,4)：押塚登貴夫（名誉指揮者）

指揮(5)：岡本 仁（名誉指揮者）

ピアノ(1,4)：森 朋子

1. 狩人の合唱
2. 希望の島
3. ふるさと
4. 兵士の合唱
5. 新しい歌をエホバに向いて唱え

原詞：J.F.Kind 訳詞：三浦和夫 作曲：C.M.von Weber

作詞：小松玉巖 作曲：H. ジョーンズ 編曲：平井康三郎

作詞者不詳 作曲：オナーティン 編曲：オリオンコール

原詞：J.Barbier & M.Carre 訳詞：吉田秀和 作曲：C.F.Gounod

作者不詳 編曲：平田 甫



定期演奏会開催によせて

専修大学学長

矢 野 建 一

専修大学グリークラブの第50回定期演奏会にご来場賜りまして誠にありがとうございます。毎年、定期演奏会を開催するにあたり、多くの方々のご支援やご協力を頂きまして、重ねて御礼申し上げます。

学生諸君は、大学において勉学に励み、課外活動等を通じてさまざまな経験を積み重ねながら、日々懸命に努力しております。また、今年も定期演奏会を開催することにより、団員としても貴重な経験を得ながら、合唱力の向上に励んでまいりました。その日頃のチームワークと練習は、本日の晴れ舞台に繋がっていると期待しております。

専修大学は、今年9月で創立135年を迎えました。本学の学生諸君を始めとして、教職員、卒業生やご父母の皆様で一体となり、これから迎える創立150年に向けて、さらなる飛躍の年となるよう取り組んでまいります。

本日も来場の皆様には、どうか暖かい励ましとともに、専修大学グリークラブの美しいハーモニーをお楽しみ頂きたいと思っております。



五十年の歴史の重み

専修大学名誉教授

専修大学グリークラブ名誉顧問

鶴 田 俊 正

およそ五十年前の1963(昭和38)年、カッパコーラスに参加していた青年達が、純粋な男声合唱の世界を求めて持ち上げたのが専大グリークラブである。初代常任指揮者は学生達の兄貴分のような若さであった岡本仁先生、グリーのリーダーは現名誉OB会長の肥田英臣さんである。

岡本先生の三十年以上に及ぶ熱心な音楽指導と肥田さんのグループ運営の規範づくりと規範の遵守とを厳しく求めた指導とを抜きにして今日のグリーを語ることはできない。三代目の現常任指揮者の小橋さんは専大グリーの出身者、先輩が後輩を指導するという一般大学の音楽クラブでは考えることの出来ない珍しい指導体制がグリーの基盤を支えている。

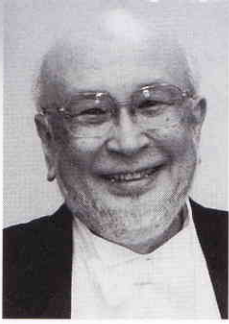
小橋さんはここ数年間ミサ曲をプログラムに選んでいる。今日もレクイエムが演奏される。また、毎年、学生指揮者達がステージを飾っている。学生にとって得難い人生体験の貴重な機会である。この試みも岡本先生が築かれたものである。

グリーのユニークなステージは、毎年グリーを支えてきたOB達との合同演奏がステージを盛り上げていることである。グリーにはフェニックスグリークラブというOBの名門コーラスがある。今日も何人かの方々が登壇している筈である。

五十年の歴史は重い。次の五十年への期待も膨らむ。歴史の証人として皆様方に見守っていただきたい。

専修大学グリークラブ顧問 奥 村 経 世

専修大学グリークラブは、コンクールには参加しません。私が顧問を引き受けた理由の一つもそこにありました。コンクールは、参加者のパフォーマンスを一つの物差しに当てはめて点数化し、順位を決めるものです。しかし、世の中の多くの物事は、多様な価値を含んでいて、一つの物差しで測ることはできません。また、数字で表現できない価値もあります。しかし、昨今の日本人は数字による評価を求める傾向があるように思えます。試験、検定、コンクールなどの結果として得られる数字は、自分に達成感を安直にもたらしてくれますが、目に見えない大切なものをないがしろにする危険があります。専大グリーが50回の定期演奏を実現してきたのは、物差しに乗らないオンリー・ワンといえる何かがあったからだと思っています。



第50回コンサートを祝う

専修大学グリークラブ
グリークラブ初代指揮者

岡 本 仁

1962年、勤務先くにたち音楽大学の理事長で国立市教育委員長をなさっているN先生から話が合った。内容は同じ教育委員で専修大学教授の早坂禮吾先生から『大学にグリークラブを発足させたいという超熱心な学生の相談に乗っているのだが指揮者を紹介してもらいたい』とのこと。この話は恩師岡本敏明教授にも伝わって「お前、行きなさい」と突然の命！早速合宿先を訪ねることになった。

第一印象は“古武道のサークル”ではないかと思われるような礼儀正しさ。これは巧くなるぞ…と予感がよぎった。生田の丘の上に毎日のように通う日々が始まった。まず基本レパートリー（十分歌い込んでいつでも歌える曲）を築くこと。はやりの「組曲」などに右顧左眄する事なくドイツ学生歌、優れた編曲の日本民謡などを徹底的に稽古。第1回のコンサートに先立って第0回ともいうべき沼津コンサート（創立者・肥田英臣君の郷里）で力試しをやった。結果は成功。クラブには優秀な学生が多く集まり80人を超えるステージも実現した。

歌好きの集いに止まらず充実した学生生活の原動力として、さらに学窓を巣立って長い人生を歩むときの大事な「心の寄りどころ」として何百年も昔から西欧で築かれてきた音楽芸術の一角を探り続けることこそ大きい目標なのだ、ということをも50周年を期に再確認したいと思っている。

第50回記念定期演奏会に寄せて

名誉OB会長 肥 田 英 臣

思えば51年前、昭和38年11月生田の山で産声をあげ、熱血あふれる20数名の男達が、男声合唱の真の音楽芸術を求めて創立した専修大学グリークラブが、50回の記念定期演奏会を迎えたことに大変感動致します。

創立以来、岡本仁先生、押塚登貴夫先生、山口大五郎先生、当グリークラブ出身で初めての小橋良行氏各歴代の指揮者、顧問の早坂礼吾先生（故人）、鶴田俊正先生、奥村経世先生方、歴代のヴォイストレーナー、ピアニストの皆様のご指導と、そして多くの方々のご支援を頂きまして、グリークラブが成長してきたことに心から感謝申し上げます。

時代は変わっても、合唱のより高い芸術性を求める心は変わらないと思います。今後専大グリークラブが益々発展することを期待してやみません。60周年に向けての成長を見守りたいと思います。

OB会会長 長 岡 宏 明

第50回記念演奏会の開催おめでとうございます。この日を迎えるにあたり、これまで歴史を繋いでこれたことの歓びを改めて噛み締めています。お世話になりました諸先生方・諸先輩方・関係者の皆様に多大なる感謝を申しあげます。7年前にOB会長を拝命いただき、今日を目標に頑張ってきました。本日を迎えられたことに安堵と達成感で感無量です。次は100年を見越して今後もOB会を盛り上げ、現役をバックアップしていきますので皆様のご支援とご協力をよろしくお願いします。



数々の思い出をありがとう

名誉指揮者

押 塚 登貴夫

今回50回の定期演奏会を迎えると聞き、驚きと感慨でいっぱいです。

思えば専修大学グリークラブとの出会いは、1965年3月沼津市で開催された演奏会の時と、記憶しております。国立音楽大学を卒業したばかりの私に、岡本仁先生から声をかけていただき、のこの沼津に出かけ行き、それが縁で岡本先生のお手伝いをするようになりました。

私は、高等学校もひたすら混声合唱に明け暮れ、大学時代も混声合唱で歌い続け、男声合唱は初めての経験でありました。

元常任指揮者 山 口 大五郎

専修大学グリークラブが去年の創立50周年に続いて、50回目定期演奏会を迎えられたことは、本当に喜ばしいことです。現役の部員の諸君、そして多くのOBの皆様おめでとうございます。大学の合唱団は基本的に4年でメンバーが入れ替わり、団をまとめ引っ張っていく役員は毎年替わります。そんな中で1年1年の活動をつないで、歴史を積み重ねていくことはとても大変なことです。50回を振り返る時、様々な苦労や苦悩も思い出されることでしょう。それも大切な経験としてメンバーの絆を深めるものになっているはずです。

これからも伝統の上に立ち、1年1年それぞれのメンバーが、専グリとしての、自分たちの年にふさわしい活動を企画運営し、未来に向かって歴史を積み上げてくれることを祈っています。

常任指揮者 小 橋 良 行

「文化」とは？

ある日の事、恩師がこんな事を仰られた。

「専修大学グリークラブは“文化団体”です」

近年〇〇ハラスメントや、〇〇崩壊といった言葉をよく目にするようになった。現代社会に、何か大事なものが欠落しているのでは？底辺を広げ奥行を深くする事を忘却し、相手を思いやる事なく飢え乾き、漠然と“何か”をただ底無しに求めているのではないのだろうか？その様な疑問が広がるなか、私はふと過日の恩師の言葉を思い出した。「文化」への憧憬とか、「文化」の尊重とか、「文化」を創造するとか、現代社会に欠落している様に思える大事なものが、専大グリーの中で綿々と受け継がれて来た事を…そう、専大グリーは“文化団体”なのである。

「文化」とは？

「文化」とは人間の集まりの中で「育まれたもの」…とでも言うのであろうか。専大グリーも人間の集まりであり、そこには当然の如く規則・規範・行儀作法・慣行慣習等がある。これらを重んじ、

学び、己の血肉と化し、継承し、伝承して行く。それも「合唱音楽」を通じてである。つまり、社会の構成員としての自覚と責任感を育み、修養を積む場が専大グリーなのではないのだろうか？しかも、人類の歴史に重要な作品を遺してきた多くの偉人の作品に触れ、深く探求し自分自身を通して表現出来る機会は貴重な体験となる。

だが恐ろしい事に、長い年月と人智と労力を重ねて築き上げた文化も、たった一つの短慮な行為で、全て灰燼と化してしまう。そして、常に外に目を向け外気に触れて行かなければ、ガラパゴス化しやがて文化は廃れて行くであろう。

今までそうであった様に、これから先も決然たる勇気と、毅然とした姿勢と、厳然とした風格を持ち、「文化」を創造し発信し続ける。これこそが、専修大学グリークラブの使命であると確信し、「文化」を守り育て下さった多くのOBの方々と先生方に、感謝の念を捧げたいと思います。

グリークラブ初代ピアニスト 小 池 千恵子

記念すべき第50回定期演奏会おめでとうございます。

私が専修大学グリークラブのピアノ伴奏者として押塚先生に連れられて生田校舎に行ったのが初めての出会いでした。多分創部3年目、第2回定期演奏会前で、曲目が「ハレルヤサーム」の伴奏だったと記憶しています。

グリーのイメージはアカデミックな雰囲気とと思っていましたが、まるで体育会系の雰囲気でした。

私にとって、男性のみの団体は初めての事でしたので、戸惑ってしまった事は今でも鮮明に覚えております。

しかし練習後、喫茶店で皆でお茶を飲んで楽しい一時を過ごした事、合宿に一緒に行った事、そして演奏会当日の事を本当に懐かしく思い出します。

あれから50年、現役の皆さんがこれまで伝統を守り継続してきた事に改めて敬意を表すると共に、今後も伝統を守って、継続される事を心より願い祈っております。

グリークラブ2代目ピアニスト 北 濱 亜勾子

グリークラブ第50回記念定期演奏会おめでとうございます。

私がピアニストとしてご一緒させて頂いたのは第5回から第8回までの4年間でした。練習に行き始めてから男声合唱の重厚な響きに心地良さを感じました。が、それよりもクラブ創立者の肥田さんが目指した合唱団は、動きと気合いと時間にとっても厳しい合唱団とわかりました。時間に遅れた人はどんな所でも新聞紙を敷いて正座、そして合宿時の部屋の前のスリッパの並べ方の見事さ、等々。

クラブの根幹はその後も継続されている事でしょう。世の大学生が規律を敬遠する風潮の中で、グリークラブに在籍しこの伝統を4年間体験することはきっと将来なにかの役に立つのだと思います。

時を経た今、自分が50年の歴史の1ページに居られたことを感謝し、またこれからも専大グリークラブが末永く続けられることを期待しております

グリークラ3代目ピアニスト 沼 沢 広 子

グリークラブ創立50周年を迎えられたことを、心よりお慶び申し上げます。

私は、岡本先生の紹介で、昭和48年からピアノ伴奏を仰せつかりました。

合唱団との関わりは初めてでしたが、男声合唱のハリ、輝き、深みなどに驚き、感動をおぼえました。

部員一人ひとりの努力もさることながら、指揮の岡本先生、押塚先生のご指導の賜物と思っています。

夏の合宿も度々参加しましたが、練習時間以外の楽しい思い出のほか、規律ある生活、先輩・後輩の清々しい関係など、うらやましく思ったものです。

私は比較的長くおつき合いしてきましたので、グリークラブのOBも数多、知ることができました。心から歌を愛する素敵な方々です。

私は、諸先生の合唱のご指導を通じて、あらためて、音楽の楽しさ、すばらしさ、深さについて勉強になったことを今でも感謝しております。

グリークラブが、今後とも益々発展されることをお祈り申し上げます。

グリークラブ5代目ピアニスト 森 朋 子

専修大学グリークラブが第50回記念の定期演奏会を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

2009年からグリークラブのピアニストを務めさせていただいておりますが。昨年の創立50周年、そして今年の記念すべき演奏会といった大きな節目に関わることができ、大変光栄に存じます。それと同時に、今後のクラブの更なる向上に貢献していけるようにと身の引き締まる思いでおります。

現役部員の皆さんが～定期演奏会ではOBの方々も加わって～真剣に、そして歓びと絆を感じながらハーモニーを奏でる…なんて素敵なことでしょう。これからも先輩から後輩へと、クラブの素晴らしい伝統が引き継がれ、ますます発展していけますようお祈り申し上げます。

グリークラブ2代目ヴォイストレーナー 前 多 孝 一

第50回記念定期演奏会、誠にお目出とうございます。心からお祝い申し上げます。

私がグリークラブにお世話になったのは大学のオペラ科を終えた1972年頃、岡本仁先生からお話を頂き以後3～4年間のお付き合いだったかなと思っております。

グリーとの思い出話は数々あるのですが、練習場での礼儀正しさ、強化合宿などでも規律正しくまた先輩後輩の思いやりの深さを感じる団体で、短いお付き合いでしたが何時までも心に残る経験をさせて頂きました。

1976年7月イタリア留学出発の折も、思いがけず盛大な送別会を開催して頂き感謝しておりました。それから18年間のヨーロッパ生活を送り帰国して参りましたが、当時お世話になった役員の皆様や先輩諸氏との連絡もままならず失礼を重ねておりました。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

私は2011年より沖縄県立芸術大学で教鞭をとっておりましたが、現在は退官して町田で暮らして居ります。2年程前でしたか、前顧問の鶴田先生と偶然お酒の場でお会いして懐かしくグリーのお話を致しました。

皆々様のご健勝とグリークラブの益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

グリークラブ4代目ヴォイストレーナー 篠 崎 常 幸

記念すべき、50回目の定期コンサート、まことにおめでとうございます。

およそ20年前、ほんの3年間ではございましたが、皆様と共に音楽を楽しく学び、練習しましたことを大変名誉に思っております。

正にマエストロ小橋氏との出会いの3年間でもありました。また、当時の団員やOBの方々との定期演奏会や合宿、コンパに我が家でドンちゃん騒ぎと懐かしいかぎりです。いろいろな難局も岡本先生を中心に乗り越えられ、このような記念すべきコンサートが催されるに至りましたこと、心よりお祝い申し上げます。そして、コンサートが大成功をおさめられますようお祈り申し上げます。

グリークラブ5代目ヴォイストレーナー 柴 山 昌 宜

専修大学グリークラブ、50周年おめでとうございます。岡本仁先生からお声をかけて頂き私が関わらせて頂いたのは、イタリア留学の直前のごく短い期間だったのですが、それ以前に自分が大学生の頃、国立音楽大学のサークル、国立カンマーコールは、専大グリーさんとは繋がりがありました。特に印象的に残っているのは「アブラハムには七人の子」という、歌って踊る激しい曲をみんなで汗をかきながら、大笑いしながらやった思い出です。その後、カンマーコールでは打ち上げの度に「アブラハム」をやっていましたが、今の現役生の皆さんはご存知ですか？是非、引き継いで欲しいレパートリーです。

自分は現在もオペラ歌手として歌わせて頂いていますが、それとは別の意味で男声合唱が好きです。これからも男声合唱団でしか得る事の出来ない倍音の魅力を求めて益々活動の輪を広げていってください。

グリークラブ 6 代目ヴォイストレーナー 黒田 大 介

50回記念定期演奏会おめでとうございます。

皆さんと共に過ごした日々を今でも思い出します。常に礼儀正しく、歌を愛し、その向上心にいつも感心しておりました。

当時は新国立劇場合唱団に所属していた為、稽古や合宿になかなか伺えず、また定期演奏会では1度共演しましたが、それ以外の定期演奏会へは劇場の公演や自身の演奏会と重なり伺えなかった事を申し訳なく思います。

共演した際には、皆さんの本番での力強さと表現力に感動したのを覚えています。

また、皆さんとの時間は私自身を成長させ、私は文化庁の派遣を得て2011年よりドイツへ留学し、今年の8月に帰国しました。この50回記念定期演奏会が開催される夜、私はドイツに居り演奏会のリハーサルに、参加しております。またしても伺えず残念ですが、きっと素晴らしい演奏を披露してくださいと確信しております。

また皆さんと一緒できる日を心より楽しみにしております。

グリークラブ 7 代目ヴォイストレーナー 菊池 大 翼

第50回の定期演奏会誠におめでとうございます。

かつてチャーチルが「過去を遠くまで振り返る事ができれば、未来もそれだけ遠くまで見渡せるだろう」と言ったように、学生諸君、この50回という節目に当たり、グリーの長い歴史を遠くまで振り返り、その重みをしっかりと感じて下さい。それらをよく吸収し（プレッシャーに押しつぶされることなく）今後の専大グリーの未来への新たな一歩を力強く踏み出してほしいと願っています。

私も「発声法は声楽家の専有物にあらず」の精神で、プロの領域の発声に関する技術を、惜しみなく可能な限り皆さんへ供給し続けて行きます。

武蔵野大学音楽部ルンビニー合唱団

専修大学グリークラブの皆様、本日は第50回定期演奏会のご開催、誠におめでとうございます。武蔵野大学音楽部ルンビニー合唱団一同心よりお喜び申し上げます。

貴団とは長年にわたり第一交流校として日頃より親しくさせていただいており、皆様の豊かな表現力や、ひたむきに合唱に向き合う姿にいつも良い刺激を受けております。

本日の演奏会でも皆様の力強く厚みのある歌声が響きわたり、観客席の方々の心に響き渡る事でしょう。

これからも貴団とは一層交流を深め、高め合っていけるような関係を作っていければと思っております。

最後になりますが、本日の演奏会の成功と専修大学グリークラブ様の、今後ますますのご活躍を心よりお祈りいたしております。

定期演奏会 50 回のあゆみ

回数	開演日	演奏会場	常任指揮者	ピアニスト	ボイストレーナー	顧問	学生指揮者	代表	副代表
			岡本 仁			早坂 禮吾	水田 英臣	伊藤 修	佐藤 貞夫
1	65.11.2	久保ホール	岡本 仁 押塚登貴夫	柴田千恵子		早坂 禮吾	西本 好之	上田 章	山下 武彦
2	66.11.18	国立教育会館 虎ノ門ホール	岡本 仁 押塚登貴夫	柴田千恵子		早坂 禮吾	中村 保	坂本 一男	柳井 正持
3	67.12.15	国立教育会館 虎ノ門ホール	岡本 仁 押塚登貴夫	柴田千恵子		早坂 禮吾	中江 和夫	北濱 敬三	石崎 豊
4	68.12.4	国立教育会館 虎ノ門ホール	岡本 仁 押塚登貴夫	柴田千恵子		早坂 禮吾	新井 常夫	魚谷 洋一	稲垣 高広
5	69.12.2	国立教育会館 虎ノ門ホール	岡本 仁 押塚登貴夫	伊藤 敦子		早坂 禮吾	桜井 匡之	粟井 正	成田 雄作
6	70.11.24	国立教育会館 虎ノ門ホール	岡本 仁 押塚登貴夫	伊藤 敦子	伯田 好史	早坂 禮吾	水野 博忠	原田 克明	富永 泰史
7	71.11.29	国立教育会館 虎ノ門ホール	岡本 仁 押塚登貴夫	伊藤 敦子	伯田 好史	早坂 禮吾	阿部 麗司	寺岡 理一	西野 賢治
8	72.11.16	国立教育会館 虎ノ門ホール	岡本 仁 押塚登貴夫	伊藤 敦子	前多 孝一	早坂 禮吾	清水 良昭	結城 忠敏	川口 卓魁
9	73.11.19	杉並区立 杉並公会堂	岡本 仁 押塚登貴夫	沼沢 広子	前多 孝一	早坂 禮吾	新井 英夫	荒井 恭夫	松下 博
10	74.11.23	日本都市 センターホール	岡本 仁 押塚登貴夫	沼沢 広子	前多 孝一	早坂 禮吾	新井 英夫	伊藤 博唯	小林 暢也
11	75.11.19	日本都市 センターホール	岡本 仁 押塚登貴夫	沼沢 広子	渡辺多津彦	早坂 禮吾	蓮沼 真一	斎藤 敦夫	長田 雅輝
12	76.11.19	日本都市 センターホール	岡本 仁 押塚登貴夫	沼沢 広子	渡辺多津彦	早坂 禮吾	橋本 仁幸	勝美 信哉	中村 益夫
13	77.11.9	中央区立 中央会館	岡本 仁 押塚登貴夫	沼沢 広子	渡辺多津彦	早坂 禮吾	幸 俊孝	関根 敏視	保田 光禎
14	78.11.22	中央区立 中央会館	岡本 仁 押塚登貴夫	沼沢 広子	渡辺多津彦	早坂 禮吾	宮木 雅美	安達 孝道	本田 淳
15	79.11.17	日本教育会館 一ツ橋ホール	岡本 仁 押塚登貴夫	沼沢 広子	渡辺多津彦	鶴田 俊正	越野 実	小林 美彦	大西 祥之
16	80.11.22	日本教育会館 一ツ橋ホール	岡本 仁 押塚登貴夫	沼沢 広子	渡辺多津彦	鶴田 俊正	宮崎 祥治	斎藤 俊哉	丸林 稔
17	81.11.14	日本教育会館 一ツ橋ホール	岡本 仁 押塚登貴夫	沼沢 広子	渡辺多津彦	鶴田 俊正	高橋 勝己	布施 淳一	伊能 亘
18	82.11.20	日本教育会館 一ツ橋ホール	岡本 仁 押塚登貴夫	沼沢 広子	渡辺多津彦	鶴田 俊正	岡崎 全雄	浅野 満宏	青柳 康衛
19	83.11.19	日本教育会館 一ツ橋ホール	岡本 仁 押塚登貴夫	沼沢 広子	渡辺多津彦	鶴田 俊正	石橋 正光	野村 国弘	早坂 浩之
20	84.11.18	日本都市 センターホール	岡本 仁 押塚登貴夫	沼沢 広子	渡辺多津彦	鶴田 俊正	斎藤 千春	小宮山 篤	星野 貢司
21	85.11.30	中央区立 中央会館	岡本 仁 押塚登貴夫	沼沢 広子	渡辺多津彦	鶴田 俊正	野地 盛明	馬場 三郎	納屋 健
22	86.11.30	日本都市 センターホール	岡本 仁 押塚登貴夫	沼沢 広子	渡辺多津彦	鶴田 俊正	廣田 穰	長岡 宏明	堀内 剛
23	87.12.5	日本都市 センターホール	岡本 仁 押塚登貴夫	沼沢 広子	渡辺多津彦	鶴田 俊正	安田 亮	平野 明広	遠藤 晴彦
24	88.12.5	日本都市 センターホール	岡本 仁 押塚登貴夫	沼沢 広子	渡辺多津彦	鶴田 俊正	門馬 啓一	赤迫 和雄	高橋 徹

25	89.12.9	台東区立 浅草公会堂	岡本 仁 押塚登貴夫	沼沢 広子	渡辺多津彦	鶴田 俊正	下羽 昌明	高橋 一輝	柳田 周治
26	90.12.2	日本都市 センターホール	岡本 仁 押塚登貴夫	沼沢 広子	篠崎 常幸	鶴田 俊正	小橋 良行	宋 国憲	豊田 智紀
27	91.11.24	日本都市 センターホール	岡本 仁 押塚登貴夫	沼沢 広子	篠崎 常幸	鶴田 俊正	門馬 秀樹	戸枝 正彦	鈴木 智和
28	92.11.22	日本教育会館 一ツ橋ホール	岡本 仁 押塚登貴夫	沼沢 広子	篠崎 常幸	鶴田 俊正	斎藤 盛仁	逆井 修	天野 啓太
29	93.12.11	台東区立 浅草公会堂	岡本 仁 押塚登貴夫	沼沢 広子	柴山 昌宣	鶴田 俊正	村上 明	飯塚 直之	尾上 武
30	94.11.27	日本都市 センターホール	岡本 仁 押塚登貴夫	沼沢 広子	柴山 昌宣	鶴田 俊正	岡 研一	大跡 史法	菅澤 克行
31	95.12.9	台東区立 浅草公会堂	岡本 仁	沼沢 広子	柴山 昌宣	鶴田 俊正	小林 正幸	滝沢 文也	山本 和広
32	96.12.7	杉並区立 世シオン杉並	岡本 仁	沼沢 広子		鶴田 俊正	飯田 剛史	森口 克彦	河野 巖嗣
33	97.12.6	中央区立 中央会館	岡本 仁	沼沢 広子		鶴田 俊正	吹野 政巳	三木 純志	塩崎 泰宏
34	98.12.5	浜離宮朝日 ホール	岡本 仁	沼沢 広子		鶴田 俊正	大橋 朝良	宮野 信二	山口 和也
35	99.12.4	浜離宮朝日 ホール	山口大五郎	中谷 路子		鶴田 俊正	内藤 宏樹	北村 健	金原 友幸
36	00.12.2	浜離宮朝日 ホール	山口大五郎	中谷 路子		鶴田 俊正	安武 祥吾	松山 卓志	滝 陽介
37	01.12.8	浜離宮朝日 ホール	山口大五郎	中谷 路子		鶴田 俊正	鈴木 大輔	吉松 隆裕	月舘 博己
38	02.12.21	浜離宮朝日 ホール	山口大五郎	中谷 路子		奥村 経世	藤木 修	西田 大	寺内 聡
39	03.11.29	紀尾井ホール	山口大五郎	中谷 路子	黒田 大介	奥村 経世	高嶋 諒	吉原雄一郎	伊藤 雅教
40	04.11.23	第一生命	山口大五郎	中谷 路子	黒田 大介	奥村 経世	木暮 亮太	福原 歩	清水 一馬
41	05.12.17	オリンピック 記念センター	山口大五郎	中谷 路子	黒田 大介	奥村 経世	木暮 亮太	清水 雄介	三森 浩史
42	06.12.10	オリンピック 記念センター	山口大五郎	中谷 路子	黒田 大介	奥村 経世	青木 貴洋	藤永 陽介	小野 頌一
43	07.12.9	オリンピック 記念センター	山口大五郎	中谷 路子	黒田 大介	奥村 経世	大垣 輝	山口 進	清水 雅史
44	08.12.6	オリンピック 記念センター	小橋 良行	沼沢 広子	黒田 大介	奥村 経世	大垣 輝	小林 明頼	望月 涼太
45	09.12.19	光が丘 IMAホール	小橋 良行	森 朋子	黒田 大介	奥村 経世	牧井 佑樹	牧井 佑樹	浅沼 裕樹
46	10.12.25	オリンピック 記念センター	小橋 良行	森 朋子		奥村 経世	山下 洵	中川 拓也	山下 洵
47	11.12.3	オリンピック 記念センター	小橋 良行	森 朋子	菊池 大翼	奥村 経世	寺島 岳	宮園 貴之	中村 正和
48	12.12.15	オリンピック 記念センター	小橋 良行	森 朋子	菊池 大翼	奥村 経世	加地遼太郎 河原塚晃芳	吉村健太郎	渡辺 俊介
49	13.12.14	オリンピック 記念センター	小橋 良行	森 朋子	菊池 大翼	奥村 経世	平野 雄大	松山 尚平	二宮 大夢
50	14.11.30	日経ホール	小橋 良行	森 朋子	菊池 大翼	奥村 経世	平野 雄大	松山 尚平	二宮 大夢



常任指揮者 小橋 良行

福島県郡山市出身。専修大学法学部法律学科を卒業。在学中は専修大学グリークラブに在籍し指揮を始める。2008年から常任指揮者を務める。

作曲と機能と声学を岡本仁、作曲を蔵田雅子、ピアノを沼沢広子、声楽を篠崎常幸の各氏に師事。卒業後の音楽活動は、歌劇や合唱の指揮、編曲など。

余談だが、趣味はパイプと葉巻をふかす事。パイプは自作もする。



ピアニスト 森 朋子

上野学園大学音楽学部器楽科卒業。同大学附属音楽教室講師を務めた後、オーストリア・グラーツ国立音楽大学に留学。ピアノを兼松信子、柳澤美枝子、セバスティアン・ベンダ、マインハルト・プリンツの各氏に師事。これまでに古典から現代音楽まで、様々な時代のソロ及びアンサンブル曲で演奏会に出演。ソロ&デュオリサイタル開催。また、複数の合唱団のピアニストを務める。合唱団の海外公演の際には同行し、2010年にウィーン楽友協会にて演奏、また2012年にカーネギー

ホールでの日米桜交流100周年記念演奏会、及びワシントンD.C.の全米桜祭りに出演。



ヴォイストレーナー 菊池 大 翼

岩手県出身。武蔵野音楽大学大学院修士課程（音楽学専攻）修了。

音楽学での声楽史研究と並行して、カウンターテナーで声楽を始め、バリトンで日本オペラ振興会オペラ歌手育成部に入所。のちにテノールに転向し修了。バリトン、テノール、カウンターテナーを一人で歌うソロリサイタルを開催する他、多くの演奏会に出演。2012年には西本智実の指揮で第九のテノールソロを歌ったほか、イタリア、カステルフランコ

の指揮で第九のテノールソロを歌ったほか、イタリア、カステルフランコ・ヴェネトの歌劇場で当地のオーケストラと共演。

オペラではモーツァルト作曲《フィガロの結婚》、《ドン・ジョヴァンニ》、《魔笛》、チマローザ作曲《秘密の結婚》、ロッシーニ作曲《ランスへの旅》、ドニゼッティ作曲《ランメルモールのルチア》、ヴェルディ作曲《椿姫》、プッチーニ作曲《トスカ》、《マノン・レスコー》、チレーア作曲《アドリアーナ・ルクヴルール》、ジョルダノ作曲《アンドレア・シェニエ》、リゲティ作曲《ル・グラン・マカーブル》（日本初演）等にキャストで出演。

ヴィンチェンツォ・ベッロ、レナート・パルンボに師事。

町田シティオペラ協会ソリスト会員。専修大学グリークラブ・ヴォイストレーナー、藤原歌劇団準団員。



フェニックスグリークラブ常任指揮者 中 山 ちあき

京都市立京都堀川音楽高等学校および大阪音楽大学に学ぶ。同大学・教育助手を務めた後、大阪音楽大学ザ・カレッジ・オペラハウスの専属コレペティートル（数ヶ月間の稽古を要するオペラ制作において、各歌手に歌のテンポや発想を指導するピアニストのこと）として研鑽を積む。その後、東京藝術大学音楽学部指揮科非常勤講師を務める。

音楽に内在するドラマを奏でる技術と感性に定評があり、オーケストラを彷彿とさせるダイナミズムと繊細な表現力において、あらゆる

共演者から絶大な信頼を得ている。

数多くの舞台経験をふまえ、2010年春、型にはまらない自由な発想により客席と舞台とが一体となれるステージを創造する「☆一番星」を立ち上げる。他方、地元中学生の合唱活動にも積極的に取り組み、ピアノ伴奏による支援指導で数々の入賞に寄与する。 ☆一番星代表。

現在、フェニックスグリークラブ、混声合唱ソラーレの指導者兼ピアニスト。



名誉指揮者 岡 本 仁

1936年神奈川県横浜市出身、くにたち音楽大学卒業（教育音楽及び作曲理論）。

68年東京交響楽団を指揮し公式デビュー。（ワーグナー、ブラームス他）

71年渡欧、スイス、イタリア、イギリスはじめ各地に於いて研鑽を積む。

東響、東フィル、日本フィル、東京カンマーコレーゲンその他仙台、名古屋、広島、九州等のオーケストラにもしばしば客演。

83年アメリカ、88年ブラジルほか海外各地に多く招かれる。

87～2000年東京駅コンサート（エキコン）音楽監督。

96年～東京慈恵会医科大学客員教授「講座・音楽と人間」を担当。

活動は指揮・作曲にとどまらず講演、執筆、放送出演等広範にわたる。

1999年多年の活動と功績に対し政府から『社会教育功労者』として表彰される。

2007年「教育音楽学会」発足に際し会長に就任。

専修大学グリークラブには1963年の発足から30数年の間指導にあたった。

第1ステージ

「日本のうた～北原白秋と高野辰之の詞による～」

日本の抒情歌の中で、高野辰之と北原白秋の作詞による無伴奏楽曲を4つ選曲した。

- ・この道（北原白秋作詞、山田耕筰作曲）
- ・紅葉（高野辰之作詞、岡野貞一作曲）※指揮：浅野友泰（副学生指揮者）

前半の二曲は団員を学年で分け、少人数での合唱を試みる。「この道」を三、四年生が、「紅葉」を一、二年生が歌う。

グリーでは熟練の三、四年生、まだ少し初々しい一、二年生。それぞれの学年のもつ「色」が詞の情景とともに伝われば幸いです。

- ・待ちぼうけ（北原白秋作詞、山田耕筰作曲）
- ・からたちの花（北原白秋作詞、山田耕筰作曲）

後半の二曲はどちらも北原白秋作詞、山田耕筰作曲の楽曲となっている。このコンビによって生み出された楽曲はとても多く、今でも日本の「こころ」の歌として歌われ続けている。

美しい歌詞とメロディーに乗せて、今度は全員で「グリーの色」を出せるよう歌います。



学生指揮者 平野雄大（3年・TOP）

氏はその豊富な音楽知識と経験によって、昨年度も学生指揮者としてグリークラブの合唱を纏めあげた。今年度は引き続き学生指揮者として、より一層深みのある演奏を目指す。

氏は曲を作り、体を動かす際にもリズムを意識する等、音楽を日常生活に取り込んでいる。その常に上を目指そうとする氏の音楽への、もはや貪欲とまで言える姿勢に、我々は自ずと引き寄せられているような気がしてならない。

氏が指揮を振る「夜」をテーマにしたステージでは、男声合唱によって表現されるどこか悲しさ、寂しさが漂う演奏を是非ご覧いただきたい。



副学生指揮者 浅野友泰（2年・BASS）

副学生指揮者に彼が立候補した際、「やっぱりか」という思いだった。それだけ彼には歌にかける情熱を持っていたし、団員を引っ張っていこうという意欲があった。今回の定期演奏会で彼が指揮をする機会をステージに組み込んだのは、こうした意欲に応えてあげたいという思いがあったからだ。団員を引っ張り、時に支え合いながら練習してきた彼の初舞台が成功することを祈るばかりだ。

第2ステージ

男声合唱とピアノによる「夜」の曲集

ある真夜中に 一組曲『ある真夜中に』より

「たとい永遠にあなたの唇に
たどりつけなくても」

瀬戸内寂聴の詞によって描き出されるプラトニック・ラヴの世界。寂聴は女性を「花」、男性を「雪」に例え、「たといあなたの唇にたどりつけなくても」という無償の愛の形を奥深く書いている。ある真夜中に浮かび上がる、見返りを求めない与えるのみの愛、まさに究極の愛ともいえる情念が重々しくも繊細なピアノと熱情的な合唱によってドラマチックに表現される。

そして夜が明ける

「この悲しみはどこから来るのか
青春という名の夜の暗闇からか」

「北酒場」（細川たかし）や「まつり」（北島三郎）の作詞で知られるなかにし礼の詞による「青春」をテーマにした楽曲。流れるようなピアノにのせて、力強く、悲しく歌われる青春の夜の苦悩。眠れぬ夜に渦巻く孤独や不安、煩悩、焦燥、苛立ちの感情が消え去ることなく夜が明ける。A-molの悲しげな旋律の裏でなり続ける半音の動きによって、これらの感情が印象的に浮かび上がる。

「〈青春〉を心に持ち続ける人にとっては、この歌はきっと〈人生〉の歌となるにちがいない」（なかにし礼）

小譚詩 一組曲『暁と夕の詩』より

「あたらしい夜が来た
その部屋はからつぽにのこされたままだった」

ソネット（十四行詩）形式で書かれたバラード。静寂の中にふっと現れる喧騒の幻。だが、それはやはり幻でしかなく、部屋は以前よりもいっそう静まる。夜の静寂が美しく抒情の中に溶かし込まれたこの詩を、鮮やかなピアノと美しい合唱が彩る。

第3ステージ

月光とピエロ ～フェニックスグリークラブ～

男声合唱組曲「月光とピエロ」

堀口大学作詞・清水脩作曲(1949年)、戦後の荒廃した時期から多くの大学男声合唱団に好んで歌われている名曲です。「合唱組曲」という形式は清水脩が『月光とピエロ』において世界で初めて使った手法で、いくつかの小品を組み合わせてひとつの組曲となっています。

「ピエロ」とは、本来イタリア古典演劇に登場する、いわゆる「下男」のことであり、尻軽女の「ロンビーヌ」に恋をするがいつも振られ役を演じます。心の中は悲しみに咽びつつも、道化をしなくてはならないピエロ、この心境は誰にも経験のあることでしょう。そしてそれ故にピエロの「身のつらさ」は我々自身にもあまりに痛切に感じられます。

専修大学グリークラブがこの曲を最初に演奏したのは、クラブ創立間もない昭和40年3月沼津公会堂で開催した地方公演のステージでした。そしてこの年の12月専修大学グリークラブは第1回定期演奏会(久保ホール)を開催、そのメインステージの曲として演奏いたしました。本日、第50回定期演奏会を期にOB合唱団フェニックスグリークラブが50年の思いを込めて歌います。

フェニックスグリークラブ代表 関 隆 三(昭和44年卒団)

フェニックスグリークラブ プロフィール

私たちは専修大学グリークラブOBで組織する男声合唱団です。

1979年に産声を上げて以来35年間活動を続けて参りました。創設から20年経った1999年に、私たちにふさわしい名称をつけようという事になり、出身大学が象徴としている「鳳」と「不死鳥」の如く「いつまでも若々しく歌い続けられるように」との願いを込めて「フェニックスグリークラブ」と命名いたしました。

活動面では2年に一度の「演奏会」、毎年開催される「お地蔵さんとのふれあいコンサート」(沼津市・清梵寺)、また指導者の中山ちあき先生の主宰する☆一番星のコンサートへの賛助出演など幅広い活動をしています。一時はメンバーの平均年齢が60歳に到達しましたが、現在は20才代のメンバーが加入し平均年齢を引き下げてくれています。これからも合唱を通じて交流の輪を更に広げ、ますます元気にいきいきと活動を続けて参りたいと思います。



第4ステージ

「Das Berliner Requiem」

作詩：Bertolt Brecht 作曲：Kurt Weill

1918年、第一次世界大戦が終結。ドイツ帝国では革命が勃発し共和制国家が樹立した。翌1919年にヴェルサイユ条約が締結される。戦争によってドイツの人的資源は枯渇し、敗戦による混乱と戦勝国から課せられた巨額の賠償金が、人民と政治経済を窮地に追い込んだ。先の見えない混沌とした時代、何かに取り憑かれたかの様な世相。人心は疲弊を極め、新たな潮流を囑望する空気がやがて、そう…あの男の台頭を許す萌芽となる。曲を書いたKurt Weill(1900年－1955年)と、詩を書いたBertolt Brecht(1898年－1956年)の共同作業も、この潮流の渦の中から発芽した。しかし、やがて二人は袂を分かち、ナチスの手を逃れ祖国を離れて行く。

「Das Berliner Requiem」は、同じくWeillとBrechtの共同作業による「三文オペラ」と同様に1928年の作品。初演は翌1929年で、フランクフルトのラジオから放送された。初演に到るまでの過程で、多くの変更を余儀なくされた様だ。

Requiemと銘を打っているが、ラテン語によるテキストではない。「暴力」を告発し、「最後の審判」を恐れ、「死」を冷眼し、「神(天)」を皮肉り、「信仰」を揶揄し、残酷な言葉の奥底に「鎮魂」を秘めた世俗的なRequiem。言葉・音・リズムが相乗的に絡み、独特の雰囲気醸し出している。時代を映す怪作…いや、傑作であろう。

1 曲目「Großer Dankchoral」～大いなる感謝の讃美歌～

文頭に繰り返し使われている「lobet」という言葉。「賞賛する」とか「讃える」という意味であるが、何を？「暗黒」「天(神)の忘れっぽさ」「草や動物(自然)」「寒さと暗黒と滅亡」を…である。割愛された一節には「腐肉を踏まえて伸び上がり天に向かう木を」ともある…。凡そ「賞賛」からは程遠い言葉が並び、荒々しいリズムと共に深く心を抉ってくる。奇怪な表現はBrechtの真骨頂とも言える。最後に「君たちなんか死んだところで問題じゃあない。だから安心して死ぬがいい」と締めくくる。神への皮肉であろうか？信仰とは何か？生命の尊厳は何処へ行った？

2 曲目「Ballade vom ertrunkenen Mädchen」～水死したむすめのバラード～

「家庭用説教集」というBrecht初期の詩集に載っている。これは1曲目の「Großer Dankchoral」も同様である。オリジナルはギター伴奏による。溺れ死んだ少女の死体が川を流れていく様から始まり、次第に腐敗してゆく彼女の事を、どうして神が憶えているのか？と冷たく突き放す。そして彼女はただの腐肉の一つとなる…と歌う。ゆったりとしたテンポは、一層悲壮感を煽る。

3 曲目「Marterl」～墓廟～

当初の詩は「Grabschrift 1919」～墓碑名 1919年～であったそう。ローザという実在の女性の事が書かれていた。「赤いローザ」と通称されている詩である。ローザとは、Rosa Luxemburg(1871年－1919年)の事。彼女は共産主義の革命家で、詩を書いたBertolt Brechtも共産主義者であった。

ローザは殺され、死体は川に投げ捨てられた。死体はその後数ヶ月間も放置され、引きあげられた時は識別が困難なほど傷んでいたそうだが…しかし、この「赤いローザ」は破棄され、ローザは乙女ヨハンナと姿を変え詩を差し替えて「墓廟」という名で発表された。お気付きの方もおられると思う。2曲目の水死したむすめは、この Rosa Luxemburg だと伝えられている。

4 曲目「Erster Beriche über den Unbekannten Soldaten unter dem Triumphbogen」

～凱旋門の下の名もなき兵士についての第1の報告～

まるで行進曲を思わせる導入部。男達が寄って集って見知らぬ兵士を殺し、誰の死体なのか分からない様にする為に、顔を潰して凱旋門の下に埋めた…と告白する。男達は犯した罪に慄き、最後の審判で自分たちは救われるのでしょうか…と歌う。ソロとコーラスの掛け合いが特徴であり、劇的な効果を生んでいる。

5 曲目「Zweiter Beriche über den Unbekannten Soldaten unter dem Triumphbogen」

～凱旋門の下の名もなき兵士についての第2の報告～

前曲で名も知らぬ兵士を殺した男達が、僕らに殺された兵士は生き返りはしない。最後の審判でも何も語りはしない…何故なら、最後の審判なんて無いのだと語る。彼の死体の上の重い石を退けてやれ…そしてこの石を見ると、まだぶち殺されずに生きている者がいる事を思い出すと歌う。終始ソロにより歌われる。

6 曲目「Großer Dankchoral」～大いなる感謝の讃美歌～

1 曲目を再び歌う。中間部を割愛して演奏をする。

第5ステージ

「第50回定期演奏会記念 学生&OB合同ステージ」

愛唱歌で綴る半世紀の歴史 ～名誉指揮者を迎えて～

専修大学グリークラブが半世紀に渡り歌い継いできた愛唱歌の中でも、特に節目節目で演奏されてきた最も重要なレパートリーから5曲選んで演奏をします。家族構成にたとえば、専大グリーは祖父・父・息子の三世代の大家族。当団半世紀の歴史・文化を、名誉指揮者と共に、三世代で綴ります。

1 曲目「狩人の合唱」

歌劇「魔弾の射手」第3幕 第6場より。作曲はCarl Maria von Weber。ドイツ・オペラの傑作とされています。C.M.von Weberの伯父の娘(つまり従姉)は、かのW.A.Mozart夫人のConstanze。序曲と並び、「魔弾の射手」の中で最も有名な曲であります。TVコマーシャル等でも使用された事があるので、一度ならず耳にされた方も多いと思います。

2 曲目「希望の島」

讃美歌を起源とするこの曲は戦前から愛唱されていた様です。カワイ出版の「グリークラブアルバム2」に収録されており、男声合唱の経験のある方なら、誰もが知る荘厳且つ素朴な名曲です。作詞者の小松玉巖は、オペラ「羽衣」で知られる作曲家の小松耕輔。

3 曲目「ふるさと」

こちらはカワイ出版の「グリークラブアルバム1」に収録されています。専大グリーのみならず、3冊出版されている「グリークラブアルバム」の収録曲を愛唱している男声合唱団は数多在ります。所属する団が違ってても、共通して歌えるレパートリーが多いのが日本の男声合唱団の魅力の一つと言えるでしょう。編曲がオリオンコールとありますが、戦前(昭和初期)に活躍した合唱団の様です。

4 曲目「兵士の合唱」

歌劇「ファウスト」第4幕 第4場より。作曲はCharles François Gounod。J. W. von Goetheの名作「ファウスト」を素材としています。原語はフランス語ですが、吉田秀和氏の名訳で歌います。当団は伝統的にオペラの合唱曲を得意なレパートリーとしてきました。中でもこのGounodの「兵士の合唱」を最も得意としています。

5 曲目「新しき歌をエホバに向かいて唱え」

もし新約聖書をお持ちなら、巻末に詩篇が収録されているので、是非ご覧になっていただきたい。詩篇とは150編からなる宗教歌集の一つで、この曲は98番目の詩篇となります。詩篇は様々な作曲家により、様々な作品が存在します。当団は他にC.Fanck作曲の詩篇150番「ハレルヤ・サーム」を得意なレパートリーとしています。曲名にあるエホバとは、神の名をみだりに唱えてはならないというユダヤ教の戒律を守る信徒達が、神の名のかわりに呼んだのが元となっています。Chant(チャント)という、同音で唱える様に歌う部分があるのが特徴的です。当団で最も重要且つ得意なレパートリーであります。

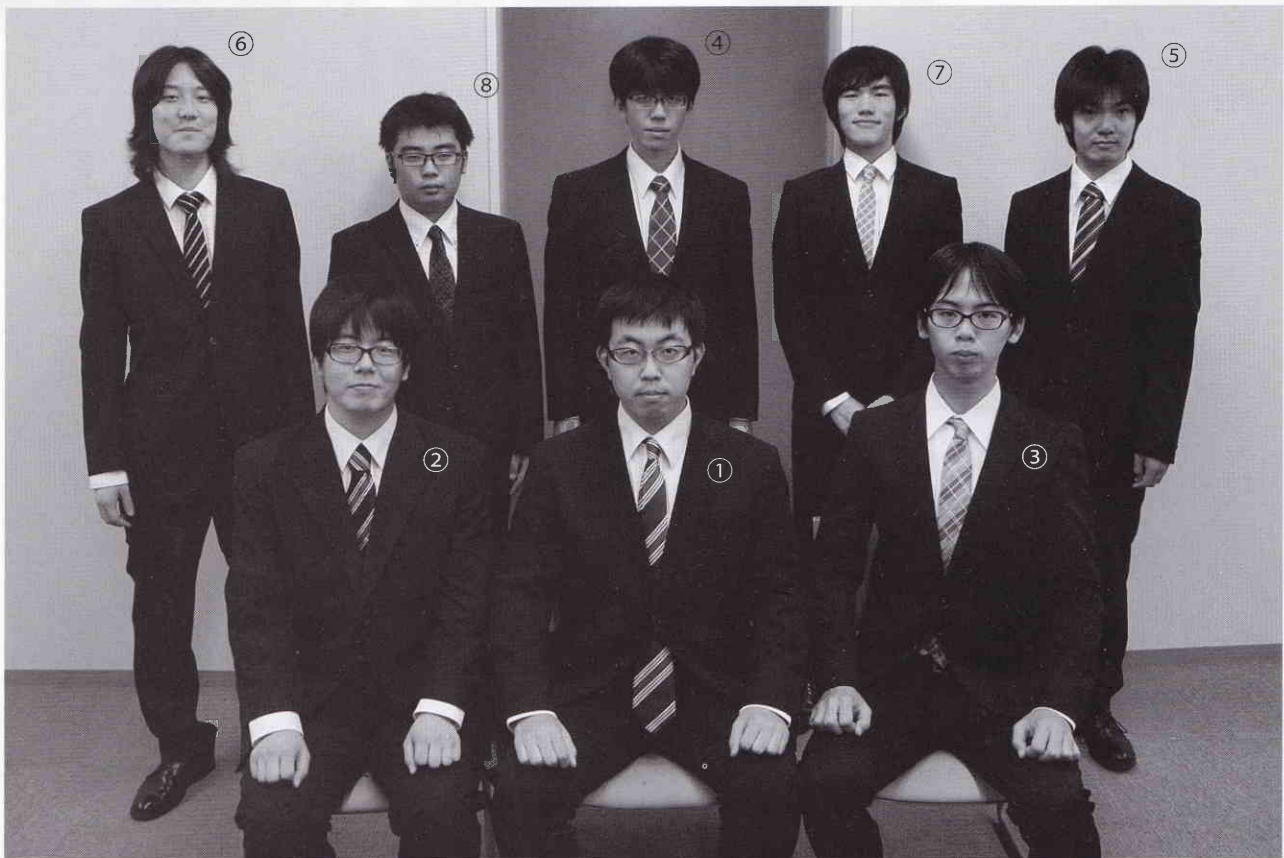
TOP Tenor



- ① 加地遼太郎 (4年) ネットワーク情報学部 ネットワーク情報学科 県立諏訪二葉高校
② 中島健雄 (3年) ★ 文学部 歴史学科 県立富士東高校
③ 平野雄大 (3年) 文学部 歴史学科 札幌東高校
④ 松山尚平 (3年) ★ 経営学部 経営学科 県立横浜翠嵐高校
⑤ 竹内 悠 (1年) 文学部 日本語学科 私立名古屋国際高等学校
★…パートリーダー

トップパートは、互いが互いを補い高め合える、そんなパートを目指し日々練習に励んできました。
他パートの作る深みのある音楽に乗せ情感豊かな主旋律を歌います。
どうぞ、トップパートの奏でる高らかな旋律をお聴きください。

SECOND Tenor



- ① 河原塚晃芳 (4年) 文学部 日本文学文化学科 私立城西大学附属川越高校
- ② 瀧澤 識 詞 (3年) ネットワーク情報学部 ネットワーク情報学科 埼玉県立熊谷西高校
- ③ 二宮 大夢 (3年) 経済学部 経済学科 県立磐城高校
- ④ 原 雅 人 (3年) ★ 人間科学部 社会学科 都立翔陽高校
- ⑤ 黒川 瑞樹 (2年) 文学部 英語英米文学科 川崎市立高津高校
- ⑥ 本間 龍一 (2年) 文学部 哲学科 都立東大和南高校
- ⑦ 稲葉 誠宜 (1年) ネットワーク情報学部 ネットワーク情報学科 藤嶺学園藤沢高等学校
- ⑧ 麦倉 一輝 (1年) 経済学部 経済学科 宮城県立私立仙台育英学園高等学校

★…パートリーダー

トップテナーのように透き通った高音でもなく、
ベースのように心安らぐ低音を出す訳でもなし。

パート単体では奇妙な音形を歌うセカンドですが、日陰者などと侮るなかれ。

奇妙なメロディは皆の歌声に寄り添うことで、和声に色を付けハーモニーを作り出します。

目立ちすぎることなくひたすらとハーモニー作りに励むこのパートは、

名前はセカンドでも貢献度は「イチバン」です！

BARITONE

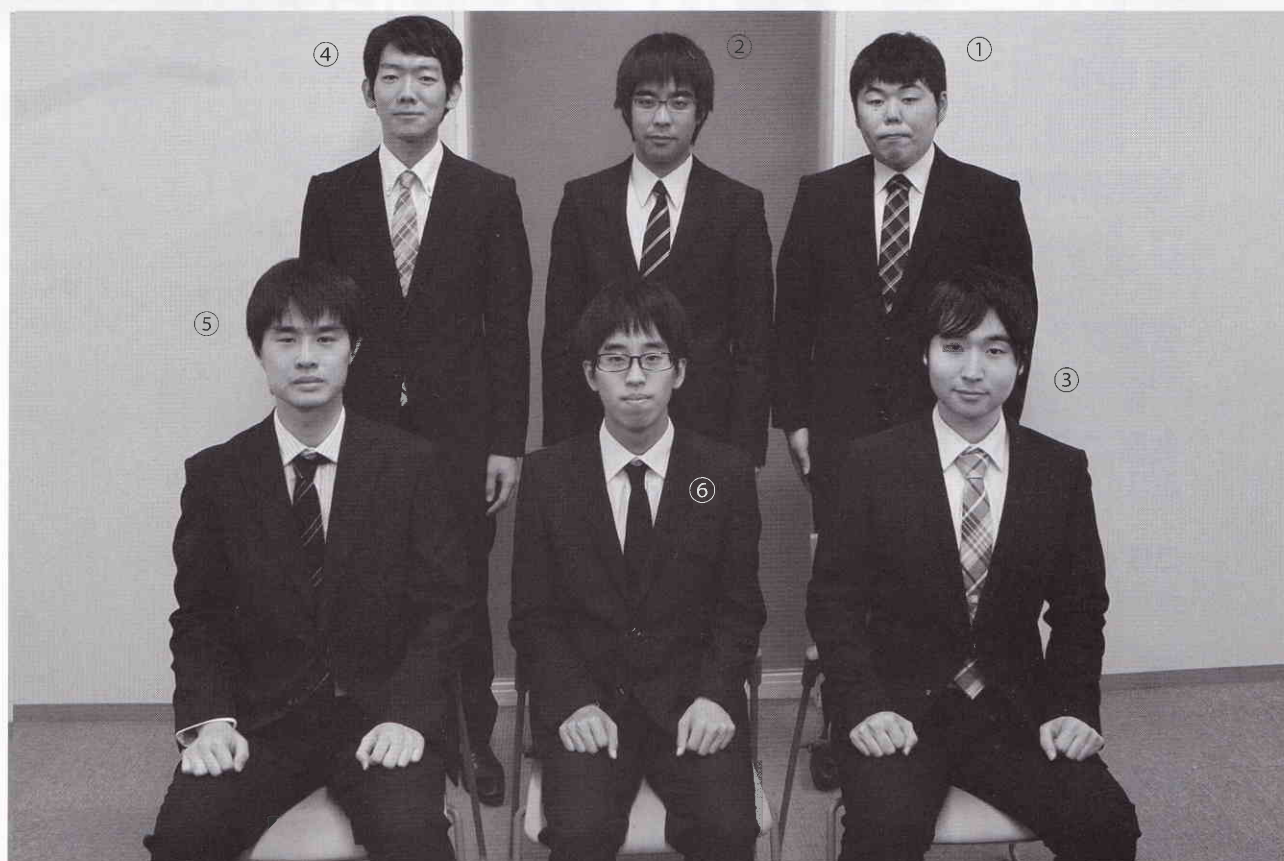


- ① 石濱 崇弘 (3年) ネットワーク情報学部 ネットワーク情報学科 県立宇都宮東高校
- ② 齋藤 彰宏 (3年) ★ 文学部 歴史学科 白河高校
- ③ 鳥居 和平 (2年) 文学部 歴史学科 城西大学附属城西高等学校
- ④ 野本 世剛 (2年) 文学部 哲学科 群馬県立太田高校
- ⑤ 平山 昌梧 (1年) 文学部 人文・ジャーナリズム学科 佐藤栄学園栄東高等学校
- ⑥ 長谷川 匠 (1年) 文学部 人文・ジャーナリズム学科 新潟県立六日町高等学校

★…パートリーダー

私たちバリトンパートは、全体合唱の中で、内声としてハーモニーの組み立てを行う役割を担っております。テナーの華やかさやベースの重層な響きこそありませんが、難解な音程をマスターして、全体の和音に確かな安定性をもたらすキーマンとして合唱の下支えをしております。今年はパートメンバーの入れ替えもありましたが、パート内でのまとまりのある発声と寸分違わぬ音程の美しいハーモニーづくりを目指して、日々の研鑽と努力を積み重ねて参りました。ぜひ、バリトンパートの一人一人が熱意を込めて奏でる流麗な響きをご堪能下さい。

BASS



- ① 佐久間史高 (3年) ネットワーク情報学部 私立尚志高校
- ② 松永崇志 (3年) ★ 経営学部 経営学科 私立逗子開成高校
- ③ 浅野友泰 (2年) 文学部 日本語学科 富山県立呉羽高等学校
- ④ 五十嵐智也 (2年) 経済学部 経済学科 都立狛江高校
- ⑤ 宮澤優斗 (2年) 人間科学部 社会学科 流通経済大学付属柏高等学
- ⑥ 秋山大地 (1年) 商学部 会計学科 茨城県立土浦第三高等学校

★…パートリーダー

音楽の底・基礎を支えるベースのパートとして、私たちは一年間グリークラブの低音を支えて来ました。

今年のベースには、そんな音楽の基礎を支える気概を持った、堅実・誠実な面々が揃っています。また同時に、音楽以外の部分でも、ベースメンはその誠実さでグリークラブでの様々な仕事を支えています。

音楽の技術の面では、今年一年間「迫力と芯のある低音を響かせる」ことができるように精進して参りました。

一年間鍛え上げてきた低音サウンドを、どうぞお楽しみください。

名誉顧問

鶴田俊正

名誉指揮者岡本 仁
押塚 登貴夫**名誉ピアニスト**

沼沢 広子

名誉OB会長

肥田 英臣

OB会長

長岡 宏明

顧問

奥村 経世

常任指揮者

小橋 良行

ピアニスト

森 朋子

ヴォイストレーナー

菊池大翼

学生指揮者

平野雄大

副学生指揮者

浅野友泰

T1 パートリーダー中島健雄
松山尚平**T2 パートリーダー**

原 雅人

B1 パートリーダー

齋藤彰宏

B2 パートリーダー

松永崇志

代表

松山尚平

副代表

二宮大夢

会計

佐久間 史高

渉外

齋藤彰宏

先生マネージャー

浅野友泰

OBマネージャー

黒川瑞樹

ステージマネージャー

二宮大夢

合宿係野本世剛
本間龍一**渉内**

宮澤優斗

書記

瀧澤識詞

総務

鳥居和平

企画

原 雅人

演奏会協力専修大学グリークラブ
武蔵野大学ルンビニー合唱団**後援**専修大学
専修大学校友会
専修大学育友会
専修大学学術文化会**発行所**

専修大学グリークラブ

パンフレット編集

瀧澤識詞

印刷所

有限会社エージーピー

居酒屋・ラーメン

てのぞい屋 てのぞい屋ホルモン(2F)

当社には  があります

 で触れ、 をかけ、 の温もりを伝える。

 で感じ、 で覚え、 が教えてくれる。

それはてのぞい屋スタッフ一同の大きな喜びです。

忘年会
新年会
承ります

向ヶ丘遊園駅北口より
徒歩一分
TEL044-930-2260



セブン-イレブン

環境・社会貢献
の取り組み



専修大学生田校舎店

〒214-0033

川崎市多摩区東三田2-1-2

電話 044(935)1680

◆保険代理店

◆出版局 学術図書・教科書・論集の製作

◆旅行代理店 国内・海外旅行

◆購買会 各種申し込み・書籍・文具販売

・ゼミ・卒業旅行などにご活用ください。
専大生なら3%割引になります！

・教習所・専門学校は割引価格にて受付をしています。
国際学生証・ユースホステル会員証も即日発行！

株式会社 専大センチュリー
専修大学 購買会

あなたのあれこれ だいたい100円

ローソンストア100 梶ヶ谷三丁目店

〒213-0015 神奈川県川崎市高津区梶ヶ谷3-7-50

TEL : 044 - 871 - 2499

ローソンストア100 東生田一丁目店

〒214-0031 神奈川県川崎市多摩区東生田1-3-21

TEL : 044 - 931 - 5571



Senshu University Glee Club
The 50th Regular Concert